

# 2019年3月期 決算説明会

2019年5月8日

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

垣内 永次

#### 資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・本資料では、例えば、「FY2019」と示す場合、2018年4月1日～2019年3月31日の会計期間を表します。

## 2019年3月期のポイント

- ✓ 過去最高売上高、6期連続の増収  
一方、営業利益は前期比大幅減少
- ✓ SE、4Q受注は想定どおり500億円超え
- ✓ 1月予想比で営業利益が上振れ、配当を97円に変更
- ✓ 中期3カ年経営計画、最終ゴールに向けスパート

# アジェンダ



1. FY2019 連結業績
2. FY2019 セグメント別業績概況
3. 財務状況
4. FY2020 業績予想
5. 今後の主な取り組みや状況
6. 中期3カ年経営計画 “Challenge 2019” の進捗
7. 最近の取り組み
8. ESG関連の取り組み

FY2019 連結業績 (前期比)

(億円)	FY2018					FY2019						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前期比	
売上高	729	808	703	1,152	3,393	725	975	823	1,118	3,642	248	7.3%
営業利益 営業利益率	73 10.1%	95 11.8%	68 9.8%	189 16.4%	427 12.6%	51 7.0%	100 10.3%	36 4.5%	107 9.6%	296 8.1%	▲130 -	▲30.6% ▲4.5pt
経常利益	75	89	65	183	413	51	101	33	106	292	▲120	▲29.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	55	43	134	285	35	60	5	79	180	▲104	▲36.7%

●通期業績(前期比)

売上高：6期連続増収となり、過去最高でした

## FY2019 連結業績 (1月予想比)

(億円)	FY2018	FY2019		FY2019		差異	
	通期	上期	下期	通期	1月予想 下期		1月予想 通期
売上高	3,393	1,700	1,941	3,642	1,919	3,620	22
営業利益 営業利益率	427 12.6%	151 8.9%	144 7.4%	296 8.1%	138 7.2%	290 8.0%	6 -
経常利益	413	153	139	292	127	280	12
親会社株主に帰属する 当期純利益	285	95	84	180	74	170	10

## ●通期業績(1月予想比)

売上高、営業利益ともに若干の上振れしました

FY2019 連結業績 (前期比)

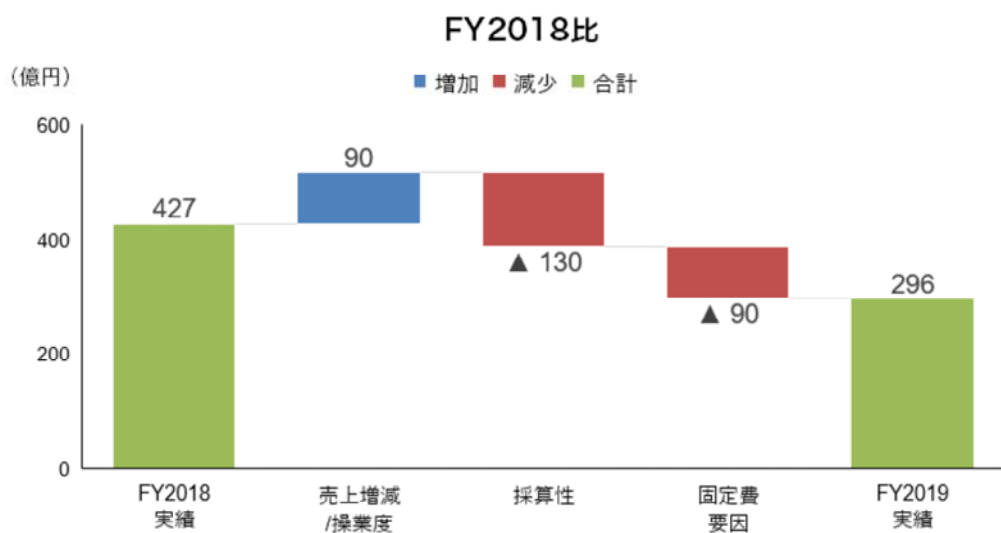
(億円)	FY2018					FY2019						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前期比	
売上高	729	808	703	1,152	3,393	725	975	823	1,118	3,642	248	7.3%
SE	465	532	455	818	2,271	471	657	582	813	2,525	253	11.1%
GA	108	139	118	168	534	114	124	115	128	482	▲51	▲9.7%
FT	129	99	91	132	452	103	150	100	137	492	39	8.8%
PE	23	33	34	29	121	32	39	20	31	123	1	1.2%
その他および調整	2	3	4	3	12	2	4	4	6	19	6	47.5%
営業利益	73	95	68	189	427	51	100	36	107	296	▲130	▲30.6%
営業利益率	10.1%	11.8%	9.8%	16.4%	12.6%	7.0%	10.3%	4.5%	9.6%	8.1%	—	▲4.5pt
SE	64	81	56	160	363	37	78	49	93	258	▲104	▲28.8%
GA	1	10	3	14	30	2	2	2	4	11	▲19	▲62.8%
FT	11	7	4	22	45	9	19	▲5	14	37	▲8	▲17.9%
PE	0	3	6	▲0	10	5	5	▲0	▲2	7	▲2	▲24.0%
その他および調整	▲4	▲7	▲2	▲8	▲22	▲3	▲4	▲8	▲2	▲18	3	—
経常利益	75	89	65	183	413	51	101	33	106	292	▲120	▲29.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	55	43	134	285	35	60	5	79	180	▲104	▲36.7%

SE: 半導体製造装置事業

FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業

GA: グラフィックアーツ機器事業

PE: プリント基板関連機器事業



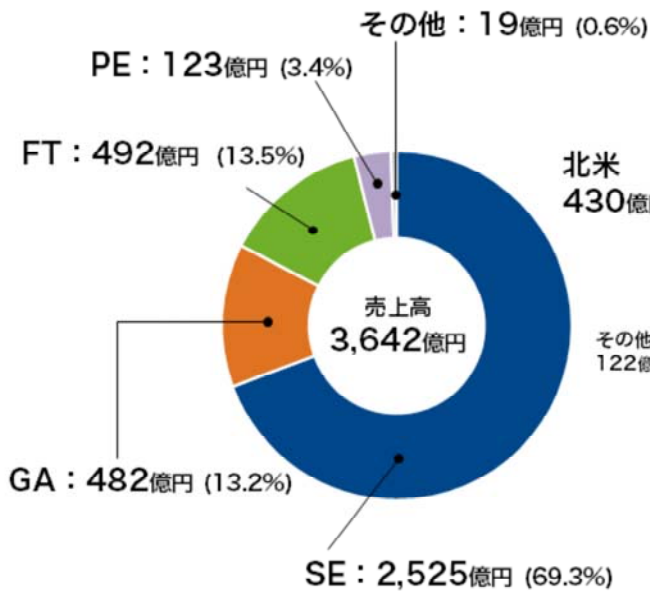
注) 利益要因は、5億円刻みの「約」表記

●FY2019・全社通期の営業利益増減分析

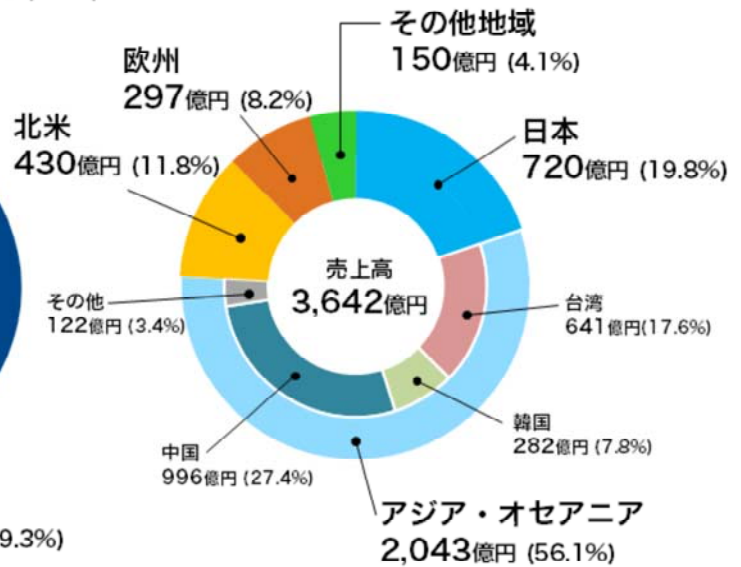
>>利益要因は、5億円刻みの「約」表記をしております（脚注に記載のとおり）

>>FY2019は、FY2018比では、増収になったものの、変動費率上昇などに伴う採算性の悪化、および、固定費負担の増加により減益となりました

■セグメント別売上高



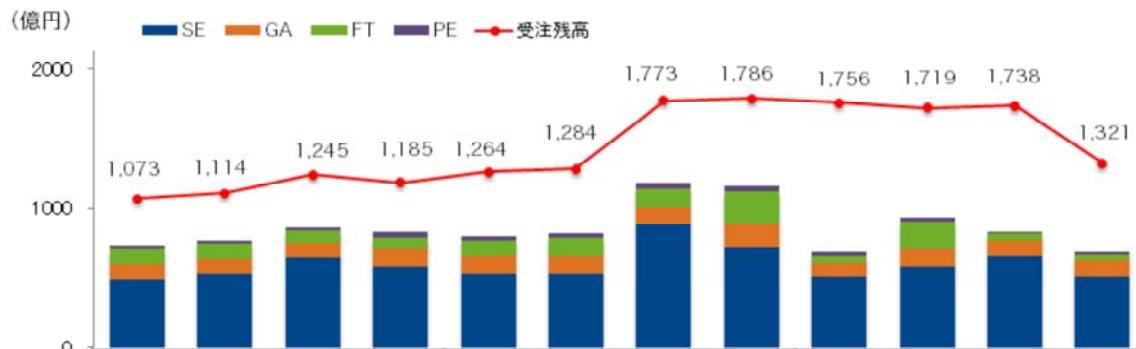
■地域別売上高



- グループ連結売上の70%弱をSEが占めています  
地域別ではアジア・オセアニア地域が一番多く、55%強を占めています
- SE事業の連結売上の海外比率：82.6%



連結受注高/受注残高の四半期推移



(億円)	FY2017				FY2018				FY2019			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
受注高	731	776	866	837	806	825	1,187	1,161	692	934	837	694
SE	491	533	648	581	529	532	883	725	506	580	663	513
GA	106	113	108	131	131	129	122	153	109	134	111	118
FT	111	111	90	85	110	133	143	246	46	192	46	36
PE	22	18	18	40	35	30	37	36	30	26	15	25
受注残高	1,073	1,114	1,245	1,185	1,264	1,284	1,773	1,786	1,756	1,719	1,738	1,321
SE	589	619	760	704	767	767	1,196	1,103	1,138	1,061	1,143	843
GA	57	45	49	48	71	61	65	50	45	56	53	43
FT	417	442	425	417	398	432	484	597	540	582	528	427
PE	9	6	9	15	27	23	26	33	31	18	13	7

## セグメント別業績概況&lt;SEセグメント&gt;

前期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	通期	通期		
売上高	2,271	2,525	253	11.1%
営業利益 営業利益率	363 16.0%	258 10.2%	▲104 ▲5.7pt	▲28.8%

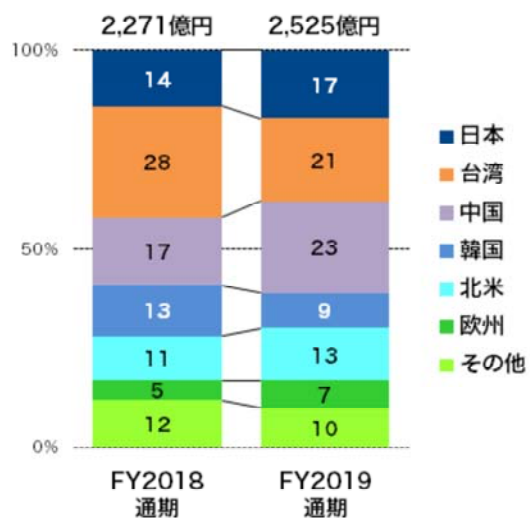
前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	3Q	4Q		
売上高	582	813	231	39.7%
営業利益 営業利益率	49 8.4%	93 11.5%	44 3.0pt	89.6%

## 概況

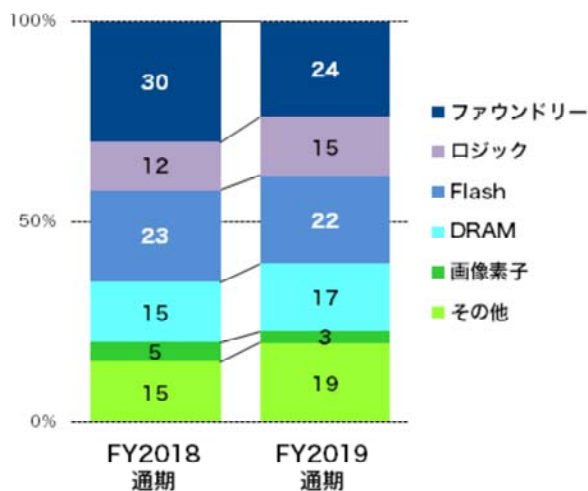
- ・ 前期比、メモリーとロジック向けが増加、ファウンドリー向けも堅調に推移、IoTデバイス対応装置（200mm）も好調で増収。一方、営業利益に関しては、変動費率の上昇や売上拡大に伴う人件費等の固定費増加などにより大幅減益となった

連結・地域別売上高比率／単独・アプリケーション（デバイス）別売上高比率

■地域別（仕向地ベース）

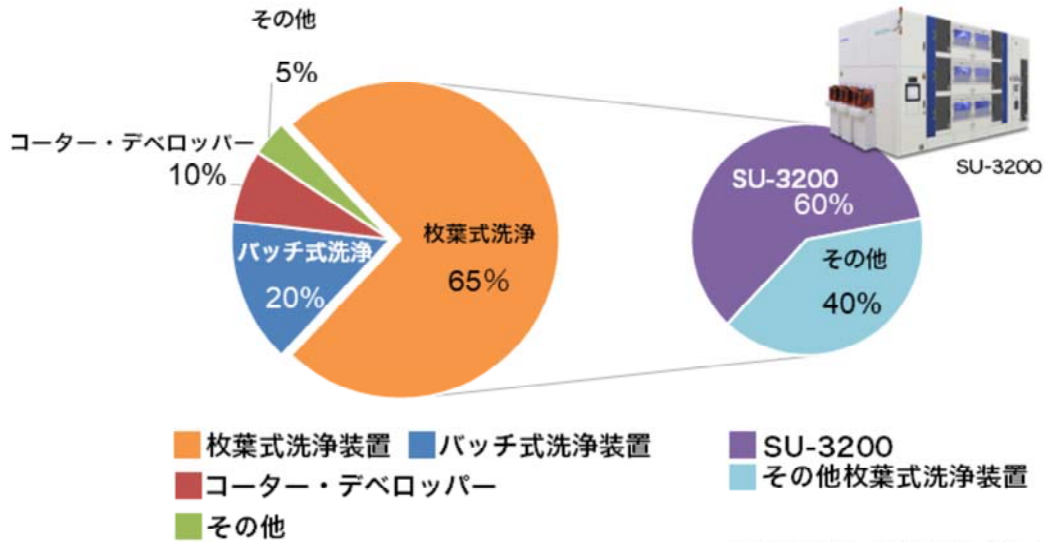


■アプリケーション(デバイス)別



単独・売上高比率

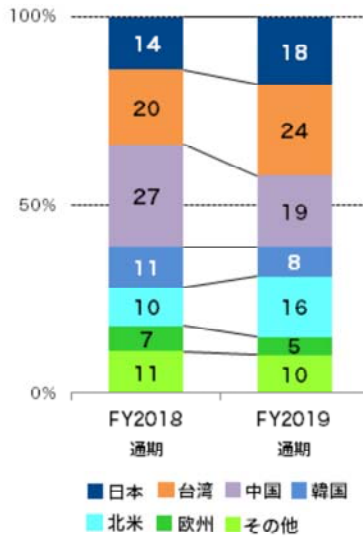
■洗浄装置 製品別売上高比率 (FY2019 通期)



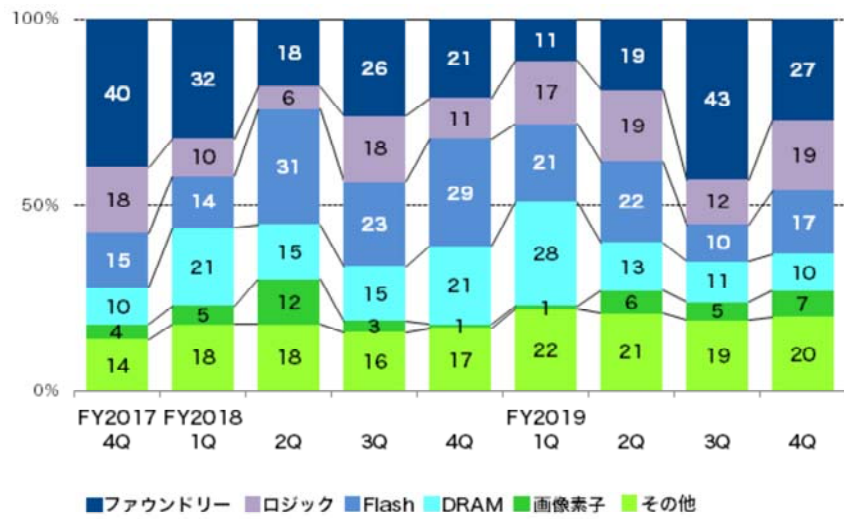
※上記比率は、5%刻みの「約」表記

単独・受注高比率

■地域別



■アプリケーション（デバイス）別・四半期推移



- ・ファウンドリー/ロジックは堅調、メモリーは微増
- ・4Qは想定を上回り、513億円を受注
- ・1Qは、4Q以上の水準を見込む

## セグメント別業績概況 &lt;GAセグメント&gt;

前期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	通期	通期		
売上高	534	482	▲51	▲9.7%
営業利益 営業利益率	30 5.7%	11 2.4%	▲19 ▲3.4pt	▲62.8%

前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	3Q	4Q		
売上高	115	128	12	11.2%
営業利益 営業利益率	2 1.8%	4 3.8%	2 2.0pt	130.8%

## 概況

- ・ 前期比、PODの直接販売、および、インク売上などが増加した一方、CTPとPODのOEMが減少し、減収減益
- ・ 引き続き、インクを中心とするポストセールス拡大を図り、増収増益を目指す

## セグメント別業績概況 &lt;FTセグメント&gt;

前期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	通期	通期		
売上高	452	492	39	8.8%
営業利益 営業利益率	45 10.2%	37 7.7%	▲8 ▲2.5pt	▲17.9%

前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	3Q	4Q		
売上高	100	137	37	37.2%
営業利益 営業利益率	▲5 ▲5.0%	14 10.4%	19 15.4pt	—

## 概況

- ・ 前期比、中小型用（OLED中心、通期売上の40%強）が増加して増収したものの、固定費増加やたな卸資産評価損などにより減益
- ・ 新規ビジネス（成膜事業関連）は、前年比1.5倍以上に増加（通期売上の10%強）
- ・ 受注：4Qは36億円となるも、1Qは100億円以上と大幅増加を見込む

## セグメント別業績概況 &lt;PEセグメント&gt;

前期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	通期	通期		
売上高	121	123	1	1.2%
営業利益 営業利益率	10 8.3%	7 6.2%	▲2 ▲1.9pt	▲24.0%

前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	3Q	4Q		
売上高	20	31	10	53.8%
営業利益 営業利益率	▲0 ▲4.6%	▲2 ▲6.4%	▲1 ▲1.8pt	—

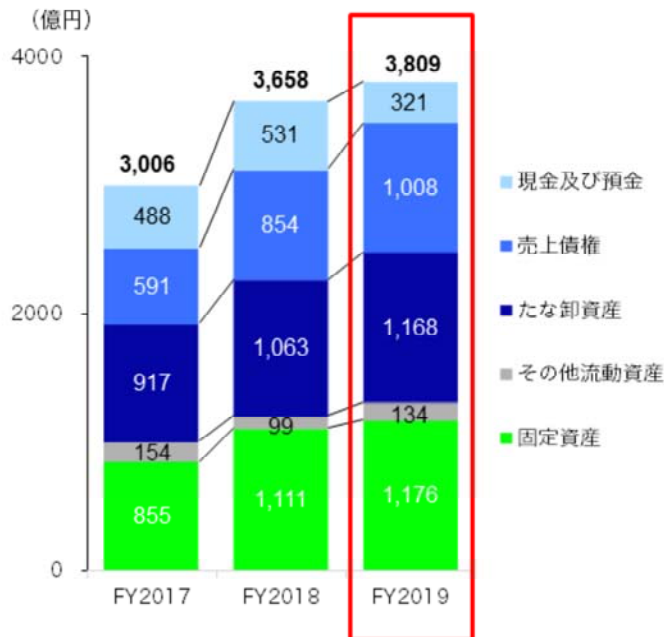
## 概況

- ・下期のスマホ関連投資減速の影響を受けるも、前期比では増収
- ・売上は、2期連続の100億円超え

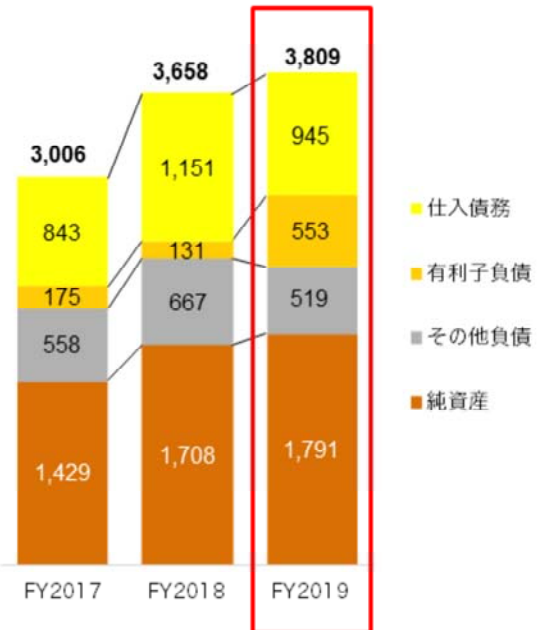


財務状況：連結貸借対照表

資産



負債および純資産

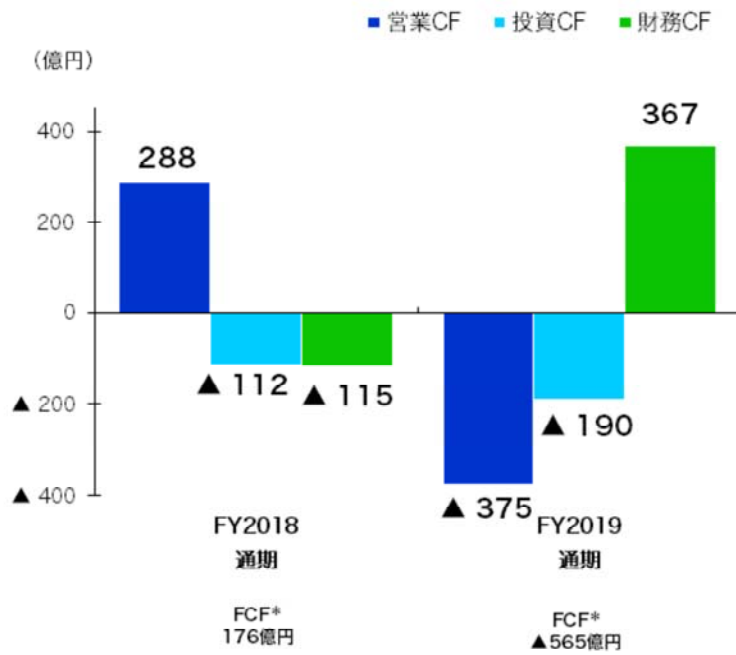


自己資本比率 46.7% (FY2018) → 47.0% (FY2019)

※ 「「検効果会計に係る会計基準」の一部改正」等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度(FY2018)の実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

- 総資産は、3,809億円、前期末（3,658億円）比で150億円増加（+4.1%）しました
- 資産の部  
現金及び預金や売上債権、保有株式の時価下落に伴い投資有価証券（▲41億円）が減少した一方で、売上債権、たな卸資産や有形固定資産（彦根・SEのS<sup>3</sup>、FTのCS-2）が増加しました
- 負債および純資産の部  
 >>負債は、2,017億円、前期比67億円増加（+3.5%）しました  
 仕入債務が減少した一方で、転換社債型新株予約権付社債の発行や、借入金の増加などにより増加しました  
 >>純資産は、1,791億円、前期比82億円増加（+4.8%）しました  
 保有株式の時価下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少や配当金の支払いの一方、親会社株主に帰属する当期純利益を計上しました
- 上記の結果により、自己資本比率は47.0%となりました

財務状況：連結キャッシュ・フロー



営業CF

運転資本の増加、法人税の支払いなどにより375億円の支出。大幅に悪化

投資CF

彦根・新工場建設(SE、FT)、研究開発設備等の固定資産取得などにより190億円の支出

財務CF

配当支払いの一方で、転換社債型新株予約権付社債(300億円)や借入金による調達を行い367億円の収入

\* FCF：フリーキャッシュ・フロー

## FY2020 業績予想

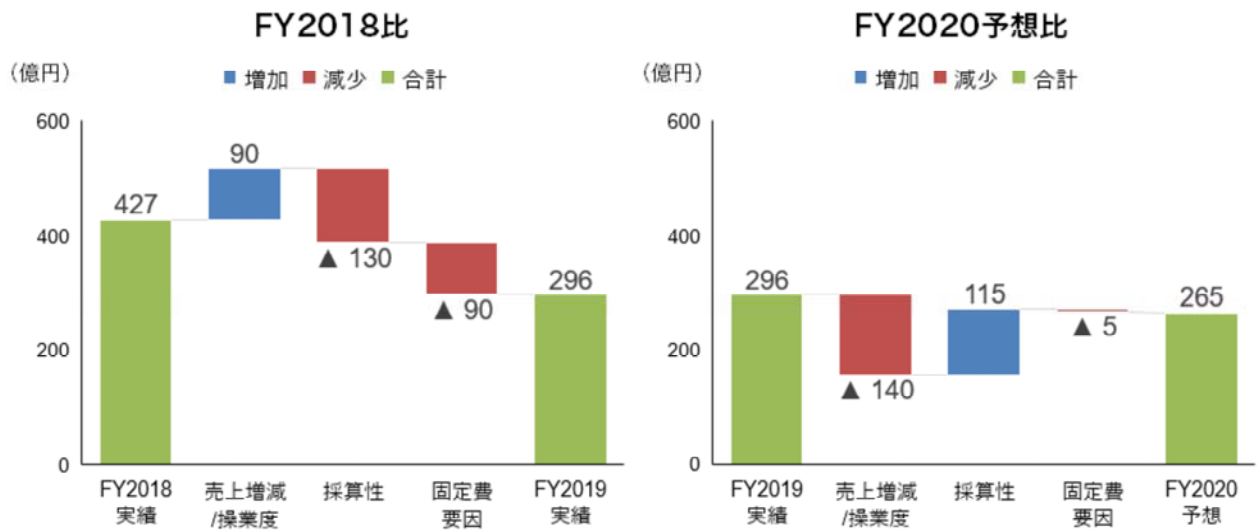
\*セグメント別営業利益予想：5億円刻みの「約」表記

(億円)	FY2019			FY2020			通期前期比	
	実績			予想			増減高	増減率
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		
<b>売上高</b>	<b>1,700</b>	<b>1,941</b>	<b>3,642</b>	<b>1,470</b>	<b>1,800</b>	<b>3,270</b>	<b>▲372</b>	<b>▲10.2%</b>
SE	1,128	1,396	2,525	1,000	1,200	2,200	▲325	▲12.9%
GA	238	243	482	240	250	490	7	1.6%
FT	254	238	492	165	265	430	▲62	▲12.7%
PE	71	51	123	55	65	120	▲3	▲2.8%
その他	7	11	19	10	20	30	10	57.5%
<b>営業利益</b>	<b>151</b>	<b>144</b>	<b>296</b>	<b>40</b>	<b>225</b>	<b>265</b>	<b>▲31</b>	<b>▲10.6%</b>
営業利益率	<b>8.9%</b>	<b>7.4%</b>	<b>8.1%</b>	<b>2.7%</b>	<b>12.5%</b>	<b>8.1%</b>	—	▲0.0pt
SE	116	142	258	40*	180*	220*	—	—
GA	4	6	11	15*	25*	40*	—	—
FT	28	9	37	0*	35*	35*	—	—
PE	10	▲2	7	0*	5*	5*	—	—
その他	▲7	▲10	▲18	▲15*	▲20*	▲35*	—	—
<b>経常利益</b>	<b>153</b>	<b>139</b>	<b>292</b>	<b>30</b>	<b>210</b>	<b>240</b>	<b>▲52</b>	<b>▲18.0%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>95</b>	<b>84</b>	<b>180</b>	<b>25</b>	<b>155</b>	<b>180</b>	<b>▲0</b>	<b>▲0.3%</b>

注) FY2020 想定為替レート>> 1USドル=110円、1ユーロ=125円 期末配当予想>> 97円  
 想定為替感応度(営業利益ベース)>> 対USドル：1.3億円、対ユーロ：0.5億円

- 今後、当社を取り巻く事業環境は、半導体業界において、AIや5Gなどの新技術領域での投資の増加が期待されるものの、次期（FY2020）につきましては、調整局面にあるメモリ向け投資の回復時期が不透明なことなどから、当期（FY2019）比では売上、営業利益ともに減少すると予想しています  
→各事業、成長投資をしつつ、コスト削減などを進めながら収益改善に注力していきます
- 今回から、想定為替感応度を開示（従来は口頭開示のみ）しました
- 次期（FY2020）末の配当予想につきましては、当期（FY2019）予定と同額、1株当たり97円を予想しています

営業利益増減分析 (FY2019通期)



注) 利益要因は、5億円刻みの「約」表記

●FY2019・全社通期の営業利益増減分析

>>利益要因は、5億円刻みの「約」表記をしております（脚注に記載のとおり）

>>FY2019は、FY2018比では、増収になったものの、変動費率上昇などに伴う採算性の悪化、および固定費負担の増加により減益となりました。

一方、次期（FY2020）比較では、売上が通期予想3,270億円と372億円の減収などにより約140億円の利益押し下げが予想されますが、変動費率など採算性の改善により利益の落ち込みを最小限に留める見込みです

## 今後の主な取り組みや状況（市場見通しなど）

## SEセグメント

- ✓ **SPE市場：CY2019のWFEはメモリー投資抑制の影響によりCY2018比▲15～20%程度、\$40bn半ばを想定**  
(中長期の成長基調の見方には変化なし)
- ✓ **メモリー：調整局面、FY2020後半からの投資回復を見込む**  
→投資再開のタイミングを捉え、タイムリーな装置納入を目指す
- ✓ **ファウンドリー：微細化投資の継続**  
→最先端のプロセス要求に応える装置群の提案、提供
- ✓ **ロジック：堅調な微細化・量産投資**  
→既存の量産投資に加え、次世代ノードの微細化投資へのサポート強化
- ✓ **IoT投資：適応エリア拡大、さらなる成長へ**  
→車載向けやパワー系半導体(SiC、GaN)、MEMS、センサー向け引き合い拡大  
幅広い顧客の要望に対応
- ✓ **中国半導体市場(特に新興メモリーメーカー)**  
→米中貿易摩擦の影響を注視し、対応していく

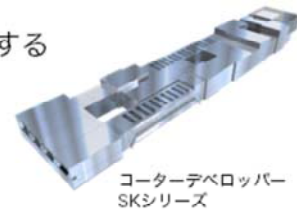
## GAセグメント

- ✓ **事業構造改革から、収益力強化フェーズへ**
  - 売上増加が続くPODの直接販売強化、循環型ビジネス（インク中心のポストセールス）の売上比率をさらに増加、収益力を上げる



## FTセグメント

- ✓ **持続可能な事業ポートフォリオへの変革**
  - ディスプレイ事業の裾野（タッチセンサーパネル、フレキシブル用途）を拡げ、新規ビジネスの売上拡大を目指す
  - 生産システム・拠点の整備などにより、収益性を改善する



## PEセグメント

## ✓ 次の市場成長期に備え、製品力を高める

→現状、スマホ関連市場は厳しいも、車載向けや5G向けに直接描画装置、検査装置（AI機能搭載）ともに引き合いは堅調に推移



直接描画装置  
*Ledit 6H*

## その他、新規事業：顧客基盤を固め、売上拡大を目指す

ライフサイエンス/検査計測：拡充した製品ラインナップに加え、サービス、ソリューション提供も目指す。



熱間鍛造部品自動外観検査装置  
IM-3200



## ▶▶ 最終ゴールに向けスパート

## 目標

- 1 単年度連結売上高3,000億円レベル  
売上規模の拡大
- 2 最終年度の営業利益率13%以上  
収益性の維持・向上
- 3 ROE15%レベル  
資本効率の維持・向上

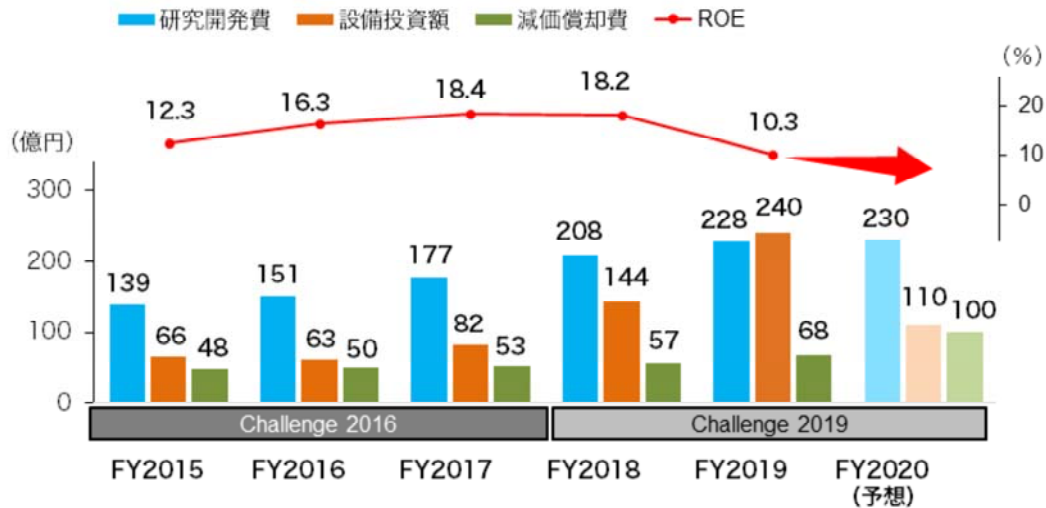
## FY2019・結果

- 売上：3,642億円  
→3期連続、3,000億円超え
- 営業利益：8.1%
- ROE：10.3%

\*上記における将来数値は、オーガニック・グロースを前提にしています



## 成長投資とROE



### ■2020/3月期の計画

- ・研究開発費：SEを中心に、次世代技術向け
- ・設備投資額：SEを中心に、研究用設備や生産用設備など
- ・減価償却費：前期のSEとFTの新棟建設の影響で増加

●過去4年間、研究開発費や設備投資額を増やしながらも、ROEも10～15%以上を維持してきました。

当期（FY2019）も成長投資をさらに上乗せし、その上で、ROEも前期並の15%以上を維持する見込みでしたが、未達となりました(10.3%)

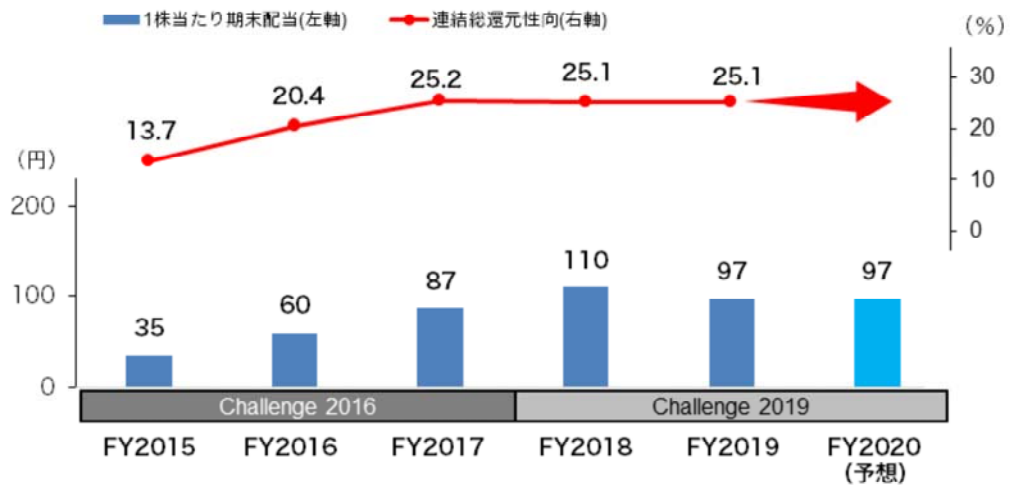
●次期（FY2020）は、

>>研究開発費：過去最大となる230億円を予定し、SEを中心に、将来に向けた成長投資を継続してまいります

>>設備投資：FY2019はSEとFTの彦根に新工場建設等、積極的に収益性改善のための投資を実行しました

➤ 連結総還元性向：25%以上を目指す

2019/3月期の業績を踏まえ、1株当たりの配当は97円を予定  
 (6月25日の定時株主総会で決議予定)



注) 上記配当数値は、2016年10月1日付で実施した株式併合 (5株を1株に) 後の基準で換算

## 最近の取り組み

## 新マネジメント体制

## ●HD (2019年6月25日開催予定の第78回定時株主総会後就任予定)

・代表取締役 取締役会長 **垣内 永次**

\*現・代表取締役 取締役社長 最高経営責任者(CEO)

・代表取締役 取締役社長  
最高経営責任者(CEO) **廣江 敏朗**

\*現・(株) SCREENファインテックソリューションズ 取締役会長

## ●主な事業会社 (2019年4月1日時点)

- ・(株) SCREENセミコンダクターソリューションズ 代表取締役 社長執行役員 **後藤 正人**
- ・(株) SCREENグラフィックソリューションズ 代表取締役 社長執行役員 **柿田 高德**
- ・(株) SCREENファインテックソリューションズ 代表取締役 社長執行役員 **志摩 泰正**
- ・(株) SCREEN PEソリューションズ 代表取締役 社長執行役員 **山本 均**

## 最近の取り組み

## HD

- ・「平成30年度しが生物多様性取組認証制度」において最高評価の3つ星を獲得
- ・「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」に2年連続で認定
- ・第22回環境コミュニケーション大賞「優良賞」を受賞
- ・本社事業所で使用する電力を100%グリーン電力化

## GA

- ・ヒラギノフォントがソースネクスト社の「POCKETALK® (ポケットーク) W」に採用
- ・「Truepress Jet520NX」のラインアップを拡充
- ・業界トップクラスの生産性を実現した24ページサイズのハイグレードCTPを開発

## FT

- ・第10.5世代ガラス基板対応のコーターデベロッパー「SK-3033G」を重点顧客に納入

詳細は、当社Webサイト上の「グループニュース」を参照願います

\* 「グループニュース」 : <https://www.screen.co.jp/news/2019>

ESG関連の取り組み



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

当社グループは、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」を当社の企業理念にも通ずる目標だと捉えています。そのため、17のゴールのうち特に以下の6つの重点課題に積極的に取り組み、全人類が平和で豊かに暮らせる社会を目指し、地球規模で持続的に成長することに貢献します。

>>6つの重点課題



G（経営基盤）：守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の戦略的開示



取締役会の実効性評価実施

→本年は、第三者機関によるアンケート・インタビューを実施。  
結果を、取締役会にて分析・議論・評価し、概要をWebにて開示



エンゲージメントを本格的に取り組み開始（FY2019～）

→サステナブル経営を目指し、ESG側面の対話を強化中

2019年度投資家・アナリスト向けアンケート実施

→決算説明会（ラージミーティング）資料に改善の余地あり  
今期、スモール/個別ミーティング後に追加FAQをWebに開示予定  
→全体評価は5段階の4以上

E（環境）：「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会へ貢献



環境配慮型の製品によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

- 「顧客要求に基づくSU-3200、SU-3300のCoO（Cost of Ownership）改善」が、社内表彰制度「Green Value Award」EHS管理統括者賞を受賞
- 枚葉式洗浄装置の処理レシピの最適化により、薬液廃液量の大幅削減（環境負荷低減）、顧客のコストダウンにも貢献

S（社会）：ディーセント・ワーク\*の実現と、社会的価値の創造



従業員一人ひとりの健康を確保

- 2年連続、「健康経営優良法人～ホワイト500～」に認定



\* 働きがいのある人間らしい仕事

株式会社SCREENホールディングスは、FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Index、SNAMサステナビリティ・インデックスの構成銘柄です。



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan



Member of SNAM Sustainability Index 2018

■ご参考>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020 (予想)
売上高	2,376	2,596	3,002	3,393	3,642	3,270
営業利益	171	235	337	427	296	265
営業利益率(%)	7.2	9.1	11.2	12.6	8.1	8.1
総資産	2,495	2,700	3,006	3,658	3,809	—
自己資本	1,108	1,196	1,428	1,708	1,791	—
自己資本比率(%)	44.4	44.3	47.5	46.7	47.0	—
ROE(%)	12.3	16.3	18.4	18.2	10.3	—
減価償却費	48	50	53	57	68	100
設備投資額	66	63	82	144	240	110
研究開発費	139	151	177	208	228	230
EPS(円)	255.35	396.75	511.96	608.62	387.10	385.79

**SCREEN**